

環境配慮型物流・包装の推進

ムラタでは、製品をお客様にお届けする際の物流における環境負荷を最小限に抑えるよう、モーダルシフトの推進、梱包・包装材料の削減などを進めています。

物流における環境負荷低減

モーダルシフトと共同配送を推進

物流時のCO₂排出量を削減するには、物流委託先の協力が不可欠です。このためムラタでは委託先への説明会を実施して、省エネルギー運転を啓蒙し、普段からの実践をお願いしています。また、トラック輸送からCO₂排出量の比較的少ない鉄道・海運利用へと転換するモーダルシフトを推進し、一部では共同配送に着手しました。これらの施策によって、2006年度は国内の物流CO₂排出量を実質生産高原単位で2000年度比26%削減となり、目標を上回る実績をあげました。

今後さらなる削減のためにはトラック1台あたりの積載効率の向上と共同配送の拡大が重要です。2006年度は国内物流網をゼロから再編することを検討し、一定の構想を立案しました。2007年度からこれを順次実行に移していきます。

物流時CO₂排出削減量



製品の小型化で包装材料を削減

近年、技術革新によって製品が小型化し、使用する包装材料の削減が進みました。例えば、当社の主力製品である積層セラミックコンデンサの小型化は、過去5年間で約

従業員の声

ムラタに最適な物流網を構築し、CO₂排出を削減します

2004年にJRを利用した輸送を開始して以来、対象貨物を拡大してきました。昨年は、現行のJRダイヤでは、さらなる拡大が難しいことがわかり、正直にいいますと、改めてトラックの利便性が高いことを再認識した年でした。

今年は、委託業者と協力して、ムラタの工場配置に最適な物流網を再構築します。倉庫や積替え拠点を集約する企業が多い中、積載効率を向上する手段として積替え拠点を追加します。トラックの運行回数を減らしてCO₂を削減する計画です。



生販システム部
物流システム課
遠山 佳秀

22%の包装材料使用量削減につながっています。こうした成果もあり、包装材料を実質売上高原単位で2000年度比20%削減という2006年度目標を、2005年度に前倒しで達成しました。2006年度も23%を維持しました。

また、包装用ダンボール箱を使い捨てにしない「通い箱化」にも取り組んでいます。2006年度はグループ間取引のリール品で国内全事業所に通い箱化の展開を完了しました。2007年度はお客様への納入品にも展開できるよう、お客様にムラタの取り組みについてご理解とご協力をお願いしていきます。さらに、パルクカセット包装など包装技術の革新に取り組んでいきます。

包装材料重量の削減



モーダルシフトとは？

トラックによる貨物輸送を「大量輸送が可能な海運または鉄道に転換」することで、物流時の消費エネルギーを低減すること。

梱包材の変更



包装形態の変更によって物流エネルギーを大幅削減。テープ包装で出していた大量の廃棄物も大幅減少。